



発行所 鹿兒島市秘書課
編集人 永井隆治
発行 南日本新聞社印刷局

市の現勢 (3月1日現在)
人口 146,298
男 159,587
女 305,885
世帯数 88,693

町づくりに役立つ
簡易保険
皆さんの簡易保険は、各市町村に貸出されて、住みよい豊かな町づくりに大きく貢献しています。

昭和39年度予算案

総額89億8,134万円

道路整備 清掃行政 に力を入れる

やすくなる 市民税と PTA負担

昭和三十九年度予算がきまりました。総予算額は、八十九億八千万円で、前年度にくらべて、二十三億七千万円の増加となりました。会計別に見ますと、一般会計五十億九千三百万円、特別会計が十五億一千三百万円、企業会計は、市立病院三億九千三百万円、水道九億七千万円、交通十億七千二百万円となつています。

新年度の予算編成にあたって、とくに留意したのは、明るい豊かな市民生活を実現するために、事業量を大幅にふやしたことで、住民負担を少なくするようつとめたことと、さらに、諸経費の節約をはかり、健全財政の維持につとめたこととです。

また、市民税については、国の方針にしたがって減税をすめ、一方、教育費においては、学校管理費を大幅に増額し、PTA負担を軽減するようつとめました。また、本市の財政事情は、決してゆとりがあるとは言えませんので、国や県と関係機関に働きかけて、歳入の増加をはかることと、支出面では、組織、運営事務の合理化を進める。また、市役所の電話に対する苦情が多いので、回線を三十本にふやす。東線局舎は、庁舎がせまくなったので増築する。また、市政だよりを八万五千部にふやす。

一般会計

五十億九千三百万円 充実される教育施設

事務量の増加にもない、宛名印刷機や電動計算機を購入し、事務の合理化を進める。また、市役所の電話に対する苦情が多いので、回線を三十本にふやす。東線局舎は、庁舎がせまくなったので増築する。また、市政だよりを八万五千部にふやす。

特別会計

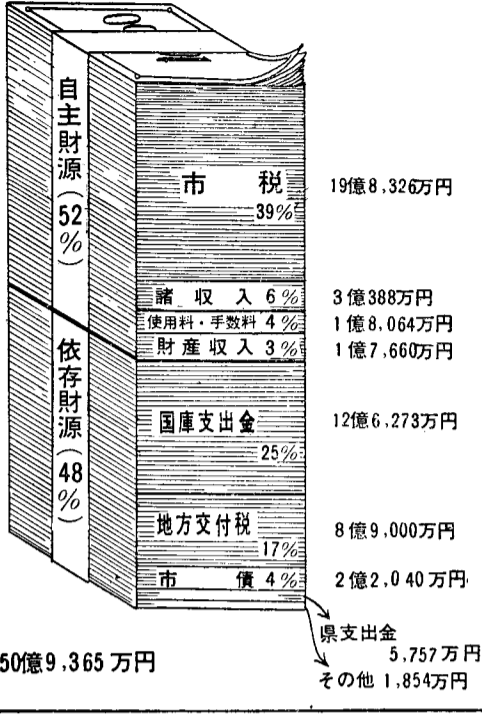
十五億一千三百万円 新工業用地を造成

【国民健康保険会計】 三十八年度の途中から、世帯主の七割給付と医療費の地域差撤廃等が実施されたので、来年度の収入金で、できるだけの負担を軽減する。そのため、高額所得者の負担はますます大きくなるのを見込まれる。そのため、高額所得者の負担はますます大きくなるのを見込まれる。

【都市計画事業費】 従来にひきつづき、脇田地区の土地区画整理事業を進め、二軒茶屋公園、南公園、脇田公園を新設する。また、トソ通り線三八〇の道路舗装と、塩屋橋のかけかえを進行する。紫原に浄水場建設を進行する。また、川上小の校舎を改築する。また、川上小の校舎を改築する。

【土木費】 五億三千三百万円 道路舗装は、二中通り線二〇〇、中洲本通り二四四を計画。また、防じん舗装は、重要度に応じて、二十五平方メートルを実施する。さらに、松方橋を三橋をかける。また、新しい計画として、清

【企業会計】 市立病院に自家発電 車洗車場を建設する。〇まわり旅の友の会を、さらに充実し、利用者の増加をはかる。



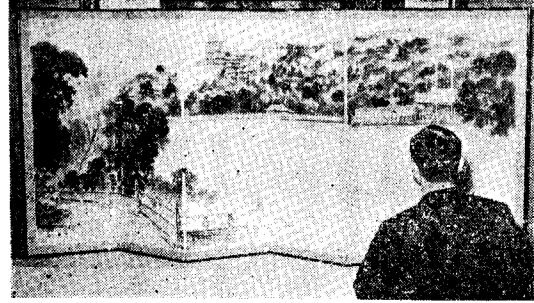
一般会計 歳入のつちわけ

総額 50億9,365万円

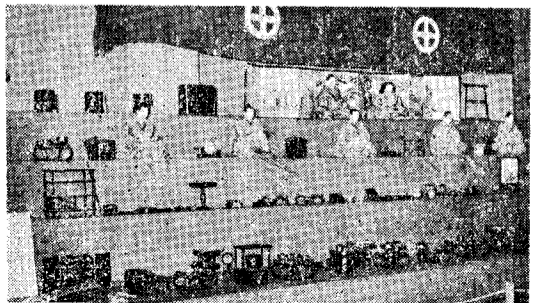


(予算案の説明をする三ツ井市長)

河本其山 水墨画展 人形展



4月1日～30日 河本其山は鹿兒島における日本画の重鎮で、産業工芸にも功績を残しました。本展はその代表作品展



4月1日～19日 木彫、紙人形、土人形など、各地の珍しい人形や島津家の御所人形など約200点
入場料・おとな20円・子ども10円
市立美術館

